

5. N E S C の 紹 介

第 1 回新エネルギー・システム国際会議について

すでにご存じのように、水素エネルギー協会、エネルギー変換懇話会、日本太陽エネルギー学会、日本風力エネルギー協会の新エネルギー関連四学会によって、「新エネルギー学会連合会」が結成された。この学会連合会は、太田時男前H E S S 会長の呼び掛けで91年1月に第1回発起人会を開催し、準備が進められたものである。去る92年5月25日には、およそ180名の参加者を集めて、学会連合会「発足記念講演会」が学士会館本館において開催された。ドイツにおける太陽-水素エネルギー利用研究の最近の情報、太陽エネルギーおよび風力エネルギー利用の最近の動向が、それぞれのエネルギー分野の権威によって、3時間にわたって報告された。

また、学会連合会では、新エネルギー・システム国際会議組織委員会を組織し（太田時男委員長、古浜庄一副委員長）、「第1回新エネルギー・システム国際会議」を、次の日時、場所にて開催するべく、準備を進めている。

期間：1993年6月27日（日）から30日（水）

場所：パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい1丁目）

主要講演項目：

- I) 各国における新エネルギー・システムの研究開発の現状と課題
- II) 水素エネルギーシステム
- III) 太陽エネルギーシステムと変換
- IV) 新エネルギー（風力、海洋、地熱、バイオなど）システム一般
- V) 燃料電池システムとその技術
- VI) エネルギー変換のための高度技術
- VII) エネルギーシステムの実際利用
- VIII) その他

水素エネルギーのセッションは、H E S S の「設立20周年記念シンポジウム」、「第2回日韓合同シンポジウム」を兼ねており、また、この国際会議は、「新エネルギーに関する要素技術、関連技術について、最近の研究の状況を把握するとともに、新エネルギー開発の問題点を探り、新しいエネルギーシステムの導入に向けて、可能性の検討と実用化をするための方法を提起することを目的」としているため、これまでの諸兄の研究成果を奮って発表されるようお願いする。

参加者400～500名、発表者150～200名の予定に対し、現在、1st Circular に対する返信が210通以上（内、国外からは130通以上）届いている。分野別の内訳はおよそ水素関

係35, 太陽関係50, 風力関係10, 不明115で, Abstract を提出したいと言う返信は, この内の100通を超える。国内からの反応はこれからと考えられるので, 盛会が期待できるのではなからうか。

2nd Circular の発送は6月10日頃を予定しており, 本誌が諸兄のお手元に届くころにはすでにご存じのことであろうが, 決定されたタイムスケジュール, 参加費等は次のようになっている。

Abstract :

受付期限: 10月30日

(注: 1st Circular に記載の期限より一月延期)

受理通知: 12月15日までに発送

原稿提出期限: 4月15日

参加費: 35,000円(2月28日以前申し込み)

45,000円(3月1日以降申し込み)

パンケット: 5,000円

会場のパシフィコ横浜は, みなとみらい21(MM21)地区にあり, 桜木町駅から動く歩道を利用して約10分の距離にある。会場から横浜港, ベイブリッジが一望できるばかりでなく, 徒歩数分のところには横浜美術館, 横浜マリタイムミュージアムなどがあるので, 休憩の目を休ませてくれるに違いない。

H E S S 会員の諸兄には, ぜひこれまでの研究成果を発表されると共に, 会議に参加されることを重ねてお願いする。

連絡先 :

第1回新エネルギー・システム国際会議事務局

横浜国立大学工学部 谷生重晴(S. Tanisho)

TEL 045-335-1451 ex. 2862

FAX 045-331-1704